

[工藤]

もしもし

[野村]

土曜日、すいません。野村と申します。

[工藤]

野村さんですか？

[野村]

昨日は、どうもすいませんでした。ありがとうございます。

[工藤]

こんにちは。

[野村]

あのですね、昨日にちょっと僕も気づけばよかったんですけども、昨日いただいた書類を、うちに持ち帰って、開き直して、ちょっと確認をしたい点、重要な点があってですね、お電話させてもらったんですけども。この情報・・・情報公開蘭越町請求書、1回出して、そこはもう工藤さんとは、もう何時間も話したんで、あなたも明確な記憶があるはずで。そこで、あなたも頑張るから、しょうがなく、僕は『全ての』と、書き直して、『全ての書類』に書き直したんですよ。8月の17日に。

そのときに、「なんで、こんなことしないといけないんだろう」と僕は、すごく、イライラしながら。結局、あなた方が分かってない訳ですからね。昨日言った通りで、もう全面的にあなた方のミスですからね、これ。こんなこと、やらせたのが。昨日、副町長も、認めた通り。ちょっと余計なこと言って、すいませんといひね、それが。あなたがちゃんと自分で調べたり答えたり、しなかったから。

「上下関係があって、俺はできない」と、あなた逃げるかもしれないけど、そんなこと、僕は知ったことじゃなくて、あなたがちゃんと答えないから、しょうがなく、僕はこれを書かざるを得なくなったわけですよ。『全ての書類』に、書き

直して、出した。その間には、今野さんに言っても、箸にも棒にも掛からない、ぬらりくらりしか出てこなくて、僕もしびれを切らして、この書き方をしたわけなんです。ただ、そのときに、後からまた変なこと言われないようにするために、なんでそういうふうにしたのかを、ものすごく具体的に僕は、経緯を、しっかり書いて、出した。文章になってるから、間違いないですよ？

頂いた、あなたが出して、昨日、くれた、一部開示決定通知書は、「請求に係る公文書の名称または内容」ってところが、「プロポーザルに係る採用となった事業者の企画提案書」っていうのは、これ、誰が作り出した言葉なんですか？

[工藤]

前の2日の日にですね。企画提案書ですね。採用になったところ、ということですね、お話したと思うんですけど。

[野村]

それね、昨日、今野さんが言ったところ。今野さんが、言ってて、僕が「記憶がない」と言っても、今野さんは、「いや言ったはずだ」って、「一定の記録がないことを止めましょう」と言ってるにも関わらず。それは結局、それはまず置いといて、「請求に係る公文書の名称または内容」って、ものすごく重要なところで。あなたよりも、僕は、何十倍も、こういう書類を扱ってるからね。その上で、ここは、あなた方が創作して書くべきところではなくて、文書開示請求書に書いてある言葉を、そのまま入れるものなんです。

[工藤]

はい。

[野村]

あなた方が創作して書いちゃいけないんですよ。

[工藤]

野村さん、すいません、ちょっとお話の途中なんですけれど、私はですね、ちょっと、お悔やみの関係で、今ちょっとお仕事で今来ててですね、ちょっと今、放

送の方をちょっと入れなきゃならないもんですから。

[野村]

終わってから、電話くれればいいですよ。

[工藤]

お電話させてもらっていいですか？

[野村]

終わったらね。お願いします。